

## 『明義進行集』と良忠著作

——信空の思想と良忠の思想——

前 島 信 也

## はじめに

『明義進行集』は一二世紀後半に法蓮房信空や長樂寺隆寛の弟子である敬西房信瑞によって作られた言行録である。無観の称名を修するようになった他宗の人物八人（禪林寺静遍・蓮華谷明遍・長樂寺隆寛・空阿・法蓮房信空・住心房覚愉・安居院聖覚・毘沙門堂明禪）の略歴や法語が述べられている。大正七年に黒板勝美博士によって大阪河内長野市の金剛寺から全三巻の内、二・三巻が発見された。

本稿ではこの『明義進行集』と浄土宗第三祖である然阿良忠の著作との引用関係を調査し、そこにあらわれる「無観称名義」の思想の取り扱いを中心に、信瑞と良忠それぞれの思想の差異を確認していく。

## 一 信瑞と良忠

信空の弟子である信瑞と聖光の弟子である良忠の関係につ

いて、先行研究を踏まえて整理すると以下の三点を挙げることができるとができる。

## ①両者が同世代の人物である点

信瑞の生年は不明であるが、信瑞の最初の著作『三部経音義』四巻が嘉禎二年（一二三六）に記されている点、そして『法水分流記』・『蓮門宗派』第二回に弘安二年（一二七九）に没していることが確認できる点から、一二〇〇年前後が生年であると推定できる。一方、良忠の生没年は正治元年（一一九九）から弘安一〇年（一二八七）までである。つまり信瑞と良忠は同年代を生きた人物であると言える。

②良忠著作内に信瑞著『浄土三部経音義集』が引用される点  
宮沢正順「記主報夢鈔中の引用文献について」<sup>(1)</sup>では、『伝通記』と『観経疏略鈔』の中で、上田正『説院逸文の研究』の逸文書解説内では、『法事讃私記』<sup>(2)</sup>の中で『三部経音義』を引用していると指摘している。

『伝通記』（浄全一・三三三下～三三四上）と『三部経音義』（正

藏五七・四三〇下)

『観經疏略鈔』(浄全一・五四五下～五四七下)と『三部經音義』(正藏五七・三九四上、四二三下～四二四上)

『法事讃私記』(浄全四・六七下)と『三部經音義』(正藏五七・四三二下)

③良忠門下の了慧道光の編纂した『和語灯録』内に『明義進行集』の名が見える点

『和語灯録』巻四「十二問答」と、巻五「諸人伝説の詞」の隆寛・信空の条の中に確認できる。

・この問答の間をは進行集には禪勝房の問といへり。ある文には隆寛律師といへり。たつぬへし「十二問答」昭法全六四〇)  
・已上信空上人の伝説なり 進行集よりいてたり「諸人伝説の詞」信空・昭法全六七二)

・進行集よりいてたり云云「諸人伝説の詞」隆寛・昭法全四六五)とある。ただし、これらのすべての内容が現存する『明義進行集』に確認できるわけではない。

以上の三点から、良忠は信瑞のことを認識しており、『明義進行集』にも目を通していている可能性が高いと考えられる。しかしながら、『明義進行集』内の諸師に関する部分と良忠著作におけるそれとを調査すると、ほとんど符合しない。大きく一致する部分としては、良忠『浄土宗行者用意問答』の中の「但馬宮雅成親王の書簡」の部分のみである。このよう

『明義進行集』と良忠著作(前 島)

に『明義進行集』の引用がほぼ見られない点を、『明義進行集』の思想の典拠と、その典拠について良忠がどのような解釈を施しているかによって、その差異を考察したい。

## 二 『明義進行集』の「無観称名」の説示と典拠

『明義進行集』の主題は信空の称えたとされる「無観称名」である。これについては望月信亨「信瑞の明義進行集と無観称名義」の中で説明が加えられている。それによると、「無観称名」は『明義進行集』の信空の項に示されることから、その名前は「多分法蓮房信空が始めて附けた名称であらう」としている。それを示すと以下の通りとなる。

【下野守藤原朝臣が女の念仏の義への疑問に対する返信】<sup>(3)</sup>

観法などをして申す事にては候はす、只口はかりにて申す事にて候なり、さてこれをは無観称名と申し候なり、観法するをは善導和尚にたてはけて観仏三昧といひ、観法せずして只口はかりにみなをとふるをは別門にたてて念仏三昧と説けり

【修理亮惟宗の忠義の不審十四箇条に答えた内の第十段】<sup>(4)</sup>

観仏三昧といは名をとへす繩床の上に端坐して心を一境に閑にして弥陀の相好を観するなり、念仏三昧といは一相をも不(ママ)観せず只名号ばかりを余念なく一心にとふるなり、是を無観の称名といふ、おほよそ浄土宗のおしへ専修念仏の至極善導和尚のまさしきところはこれひとへに称名念仏なり。

では次にこの二つの無観称名義の内容の典拠について確認していききたい。この二つについては、善導の『観経疏』および『往生礼讃』を引用したものと考えられる。まず、二書共に観仏三昧と念仏三昧について示されている。これらの部分は『観経疏』玄義分から

今此観経即以観仏三昧宗亦以念仏三昧為宗一心<sup>(5)</sup>

という部分から確認できるが、この部分ではそれらの語句を説明していない。柴田泰山氏『善導教学の研究』によると、

『観経疏』中における念仏三昧とは「専念弥陀名号」であり、かつ「正定之業」と同義ということになる。<sup>(6)</sup>

としており、「無観称名義」＝念仏三昧＝専念弥陀名号であると考えられる。

次に、「不審十四箇条」の「一相をも不観」となふるなり」の部分、善導『往生礼讃』の

又如文殊般若云明一行三昧唯勸独処空閑捨諸乱意係心一仏a不観相貌専称名字即於念中得見彼阿弥陀仏及一切仏等問曰何故不令作観直遣専称名字者有何意也答曰乃由衆生障重b境細心麤識颺神飛観難成就也是以大聖悲憐直勸専称名字正由称名易故相続即生<sup>(7)</sup>

が典拠になっていると考えられる。この箇所では『文殊師利所説般若波羅蜜経』<sup>(8)</sup>を引用し、相貌を観さずに称名することを述べており、「不審十四箇条」の文と一致していることが確認できる。

以上の様に、『観経疏』の一文を引きながらも、「無観称名」の実質的な内容は『往生礼讃』を元としていると考えられるのである。

### 三 良忠の「無観称名」解釈について

では次に先の「無観称名」の典拠と考えられる『往生礼讃』の該当箇所を、良忠がどのように解釈を施しているかを確認したい。

良忠は『往生礼讃』の傍線部a部分について、『往生礼讃私記』の中で以下のように記している。

▲不観相貌者問上五念中有觀察門何引違文合釈之耶答上对五念機明觀察門今对不堪機嫌云不観又今不観者顯無別観上言観者称名一行亦具五念謂称名字有総想帰依念以属觀察是故上文具引三心五念四修已令結帰称名一行只是付一行具心行業故祖師云源空目見三心五念四修皆南無阿弥陀仏蓋此意也〔私考一本亦無此一問答〕<sup>(9)</sup>

この部分で良忠は「不観相貌」以下の文について、『往生礼讃』に説かれる観とは実は称名一行のことであり、その中に五念門も包含するとし、何故ならそれは称名には総想帰依の念があり、それによって觀察の心も含まれることを示している。そしてその故に三心五念門四修は皆念仏の一行に収まるとしているのである。この最後の法然の法語の引用は聖光の『末代念仏授手印』に説かれる結帰一行三昧の拠り所とな

る部分である。<sup>(10)</sup>

つまり良忠は、「無観称名」の典拠である「不観相貌」の文を、法然・聖光の言葉をもつて、観察門を含む五念門等の行が念仏の教えに結帰することを主張しているのである。

さらに、この直後に『往生礼讃』の傍線部b部分を解釈し、唐突に「無観称名」の語を示している。

▲境細等者仏相無漏甚深微細名為境細凡心鹿動名曰心鹿六識名識神此乃衆生散動識劇猿猴心遍六塵無由暫息故云颺飛仏憐此機直勸称名称名易故六字相統便生浄土今文符合下下品説無観称名方成直因此警中明珠也<sup>(11)</sup>

この説示から、良忠は「無観称名」の典拠がこの『往生礼讃』所説の箇所であると認識していることを確認できる。つまり良忠は「無観称名」の典拠部分の解釈に結帰一行三昧を用いることで「無観称名」と鎮西の思想の共通性を示していると考えられないだろうか。

#### 四 まとめ

以上の様に、『明義進行集』と良忠著作を見ることで、信瑞の思想たる無観称名義と良忠の思想の関係を確認できた。信空は、特に善導の『往生礼讃』の「不観相貌」の文を根拠に無観称名を主張しており、それは良忠も認識していると考えられる。しかし良忠はその「無観称名」を意識しながらも、

『明義進行集』と良忠著作（前 島）

『往生礼讃私記』において、聖光の結帰一行三昧の文を引用することで、「無観称名」と鎮西義の思想の共通性を主張している。しかし良忠が積極的に無観称名を説く事はない。推論になるが、良忠の時代に、信空が「無観称名」を説いていたことは一般的に知られていたのではないだろうか。良忠はそれを意識し、法然の上足であった信空の系譜を鎮西義に組み込もうとしたと考えることができ、そこから法然滅後数十年における、法然門下内の思想構造あるいは、教団の形成過程を解明する一助となると考えられる。これを更に精査する問題点として、良忠著作の書誌学的裏付けや、信瑞の他の著作と良忠との関連等が挙げられるが、これらについては後の研究としたい。

- 1 『仏教論叢』三〇（一九八五）六三～六八。
  - 2 『切韻逸文の研究』（汲古書院、一九八四）四九九。
  - 3 『影印・翻刻』一四四。
  - 4 『影印・翻刻』一五三。
  - 5 『浄全』二・三下。
  - 6 『善導教学の研究』（山喜房佛書林、二〇〇六）四六七。
  - 7 『浄全』四・三五六上。
  - 8 『正蔵』八・七三一下。
  - 9 『浄全』四・三八三上。
  - 10 『浄全』一〇・八下。
  - 11 『浄全』四・三八三下。
- 〈キーワード〉『明義進行集』、無観称名、信空、良忠  
（大正大学大学院）